

# 工事監理報告書 (構造関係)

平成 年 月 日

## 建築主事殿

代表となる 事務所名 級建築士事務所 ( ) 登録第 号  
 工事監理者 所在地 TEL  
 資格・氏名 級建築士 (大臣・知事) 第 号 印  
 工事施工者 施工者名 建設業許可 (特定・一般) 第 号  
 所在地 TEL  
 氏名 印  
 建築主 住所 TEL  
 氏名 印

下記の建築物は建築基準法並びに、これに基づく政令及び条例の規定に適合した施工を行い、構造耐力上安全であることを確認しましたので報告します。

工 事 名												
建 築 場 所												
確認年月日番号		平成 年 月 日 第 号			構造計算		ルートⅠ-( ), ルートⅡ-1・2・3、ルートⅢ、その他					
工 事 概 要		構造種別			S・RC・SRC・		工事種別		新築・増築・			
		階 数			地上 階・地下 階・PH 階		最高の高さ		m	軒の高さ	m	
		建築面積			m <sup>2</sup>		延べ面積		m <sup>2</sup>			
確認通知後の設計変更 (有・無)		平成 年 月 日 第 号			内容1.							
		平成 年 月 日 第 号			2.							
		平成 年 月 日 第 号			3.							
コ ン ク リ ト	普 通	基礎			Fc: 18、21、24、27、 N/mm <sup>2</sup>		支持地盤		支持力 KN/m <sup>2</sup>			
		～			Fc: 18、21、24、27、 N/mm <sup>2</sup>		直接基礎		独立、連続、べた	液状化対策 (有・無)		
		～			Fc: 18、21、24、27、 N/mm <sup>2</sup>		杭基礎		・打ち込み杭 ・埋め込み杭(セメントミルク) RC、PHC(A.B.C)、鋼管 ・場所打ちコンクリート杭(拡頭、拡底、鋼管巻、 アースドリル、リバース、オールケーシング、BH、深 礎) ・異形摩擦杭 認定 ・評定工法( )			
		～			Fc: 18、21、24、27、 N/mm <sup>2</sup>							
	軽 量		LFc: 15、18、21、 N/mm <sup>2</sup> . 比重			礎						
PCa.		Fc: N/mm <sup>2</sup> 杭 Fc: N/mm <sup>2</sup>										
鋼 材	鉄筋			SR. 235、295 SD. 295(A.B)、345、390		ガス圧接 有・無 (D ～ )		特殊材料・構法等 大臣認定平成 年 月 日 第 号 (認定内容 ) 建築センター評定平成 年 月 日 BCJ- (評定内容 ) 建築センター評価平成 年 月 日 BCJ- (評価内容 )				
	形鋼			SS. 400、490 SM. 400(A.B)、490(A.B)、 SN. 400(A.B.C)、490(B.C)、		工場溶接 有・無						
	鋼板			STKR. 400、490. BCR295、BCP (		現場溶接 有・無		建築工事施工計画報告書及び結果報告書				
	鋼線 鋼棒			導入時コンクリート強度		Fc: N/mm <sup>2</sup>		計 画 報 告 書 平成 年 月 日 第 号 結 果 報 告 書 平成 年 月 日 第 号				
記入上の注意		◎ 提出及び記入は、原則として工事監理者によること。 ※1 監理者総合所見の欄は、監理目標とその結果に対する所見を具体的に記入すること。 ※2 工事監理組織の欄は、工事の監理体制を具体的に記入すること。 ※3 指摘事項と是正内容の欄は、工事監理者が検査を行い、指摘した事項とその是正内容を記入すること。										
そ の 他		● 施工写真、施工記録、データ(ミルシート、各種試験結果等)を添付すること。 ● 鉄骨工事をともなう場合は鉄骨工事報告書を添付すること。										

